

北へひろがる北野遺跡



明和町では、北野遺跡において開発に伴う記録保存のための発掘調査（第14次）を実施しました。北野遺跡は、過去に三重県埋蔵文化財センターが遺跡の南部で大規模な調査を行い、弥生時代後期から古墳時代初頭の集落や方形周溝墓、古墳時代後期から奈良時代にかけての大規模な土師器生産が行われていたことがわかってきています。今回の調査は、台地上にある舌状の微高地の先端部にあたり、遺跡の最北端に位置します。調査により、これまで知られていなかった古墳時代の様相が明らかになってきました。

<北野遺跡（第14次）調査概要>

遺 構：竪穴建物 17 棟など

時 期：古墳時代前期～中期

※現在、整理・検討途中のため、調査成果が更新される場合があります。

調査機関：明和町斎宮跡・文化観光課 文化財係

調査地点：明和町大字上野字古堀 77-6 ほか

調査期間：令和2年6月26日～11月17日

（※工事立会いに伴う調査も含む）

調査面積：約 1450 ㎡

調査理由：店舗建設に伴う開発



三重県埋蔵文化財センター調査箇所
（第1～5次）

<調査区全景>

（北東から）



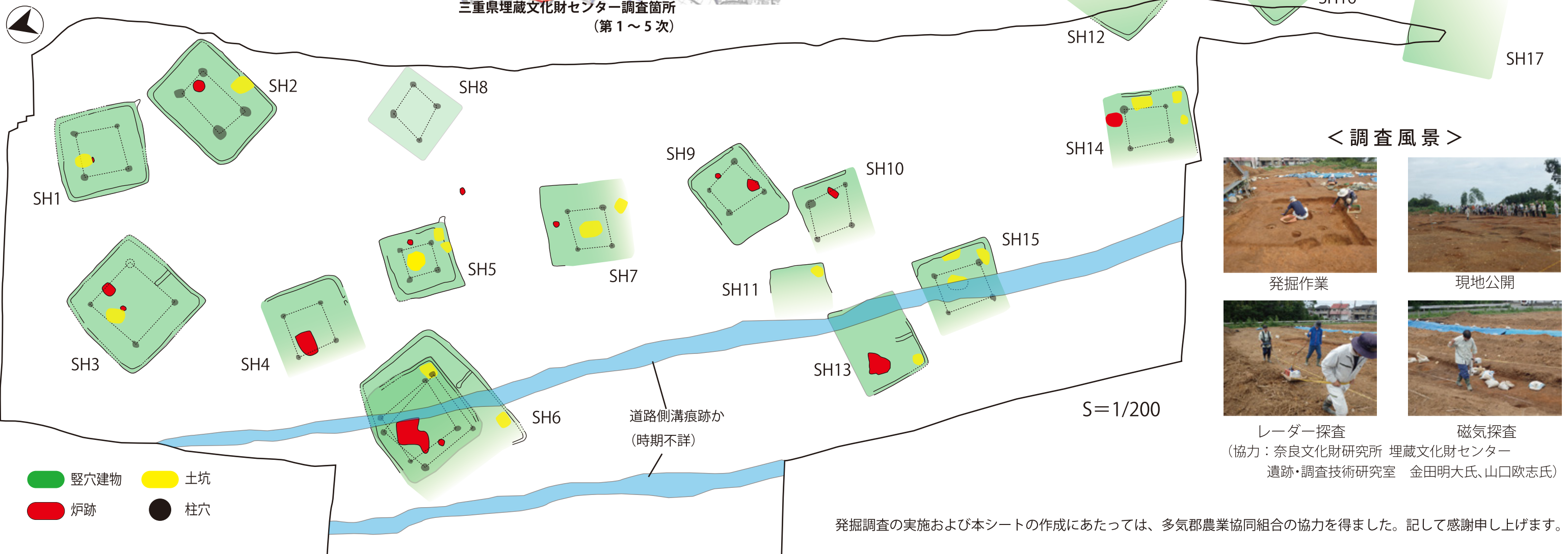
ドローンによる撮影、測量
（協力：株式会社明和プラテック）

<遺構一覧表>

「—」：不明

竪穴建物 (SH)	規模 (m)	平面プラン	壁周溝	柱穴	炉	土坑	備考	土器様式名
SH1	4.6×4.5	正方形	○	○	○	○	廻間3～松河戸1	
SH2	5.6×4.3	長方形	○	○	○	○	廻間3～松河戸1	
SH3	5.4×5.4	正方形	○	○	○	○	廻間3～松河戸1	
SH4	—	—	○	○	○	—	宇田1	
SH5	3.5×3.6	正方形	○	○	○	○	松河戸2～宇田1	
SH6 (※建替か)	—	長方形/ 正方形	○	○	○	○	廻間3～松河戸1	
SH7	4.1×—	—	—	○	○	○	松河戸	
SH8	—	—	—	○	—	—		
SH9	4.4×3.6	長方形	○	○	○	×	廻間3～松河戸1	
SH10	—	—	○	○	○	—		
SH11	2.9×—	—	—	×	—	—	松河戸2～宇田1	
SH12	—	—	○	—	○	—		
SH13	—	長方形か	○	—	○	○		
SH14	—	—	○	○	○	○	宇田1	
SH15	4.0×—	—	○	○	—	○		
SH16	—	—	○	—	—	—		
SH17	—	—	—	—	—	—	宇田2	

※各遺構の時期は整理・検討中のため確定的な情報ではありません。



<調査風景>



発掘作業



現地公開



レーザー探査



磁気探査

（協力：奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター
遺跡・調査技術研究室 金田明大氏、山口欧志氏）

発掘調査の実施および本シートの作成にあたっては、多気郡農業協同組合の協力を得ました。記して感謝申し上げます。

竪穴建物 2（SH2）



（南から）

主要な出土遺物



高杯、小形台付甕、S字甕、
小形丸底壺、鉢（ミニチュア）等

竪穴建物 5（SH5）



＜出土状況＞（東から）



主要な出土遺物



石製模造品（有孔円板）：1点



高杯、杯、壺、甕 等

竪穴建物 6（SH6）



（南西から）

主要な出土遺物



二重口縁壺（畿内系）等

＜出土状況＞



竪穴建物 11（SH11）



主要な出土遺物



台付甕、高杯 等

（西から）

竪穴建物 14（SH14）



（北から）

主要な出土遺物



高杯 等

竪穴建物 1（SH1）（北西から）



竪穴建物 3（SH3）（北東から）



＜竪穴建物イメージ図＞



（三重県埋蔵文化財センター『三重のれきし資料集』を一部改編）

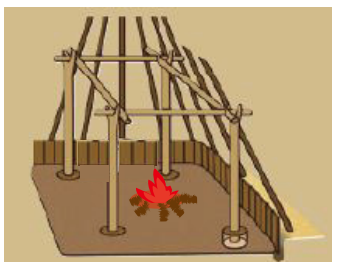
竪穴建物 9（SH9）（東から）



竪穴建物 15（SH15）（西から）



＜竪穴建物内部イメージ図＞



（三重県埋蔵文化財センター『三重の遺構シート』を一部改編）